



豊かな海を守ろう

答志島で4月28日、答志中学校の3年生15人が藻場再生に取り組みました。

生徒らは自分の名前を書いた約10kgの自然石にアラムの苗をくくりつけて次々に海へと投入し、鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部のダイバーが水深約3mの海底で並べる作業を行いました。

同校では、秋にアラムの観察も行う予定で、藻場を育むことの大切さを学んでいきます。



書道を目指すかたへ

5月2日、NPO法人ささえあいの中村悦緒副理事長から書道の書物「西安碑林全集」25巻の寄付がありました。

この西安碑林全集は、市立図書館で、6月16日(土)～7月16日(月)まで展示され、保管されます。

中村さんは、「書道の関係書類は手に入りやすく、書道を目指すかたの役に立てていただきたい」と語ってくれました。



さあ、フォークダンスを楽しもう!

鳥羽フォークダンス協会は4月30日、市立鳥羽小学校の体育館で設立20周年記念パーティーを開催しました。協会設立当初にフォークダンスを指導していただいた津市、久居市、伊勢市の講師と各市フォークダンス協会の会員も加わり、総勢134人が集いました。

会場は、和気あいあいとした雰囲気の中で、20周年を祝福する言葉と笑顔であふれ、色とりどりの衣装をまとった参加者が仲良くダンスを楽しみました。



万が一の備えにしてほしい

4月20日、ODAWA創林株式会社(鳥羽三丁目)から「いのちをつなぐ防災用薪セット」5セットの寄贈がありました。

東日本大震災で寒さに震えながら避難生活をされているかたがたをテレビで見た小田社長が何かできないかと思い、誰でもすぐ火がつけられ、暖を取ることができるよう薪、着火材、軍手などをセットにすることを考えたそうです。小田社長は、「備蓄してもらい、災害などのときに少しでも役に立ててもらいたい」と話しました。

本田市長は「いろいろなものが不足する中で、このアイデアは素晴らしい。万が一のときにこういうものがあれば助かる。ありがたくいただきたい」と御礼を述べました。